

行、英國、米國其他諸國との妥協外交を計り爲替ダンピング、財政インフレにより自己の資本的勢力を益々巨大に築き上げつゝある。岡田内閣による横田外交及び高橋財政の跡は、このことを立證する。

従つてこの帝國主義日本の政治勢力の中心は、近き將來において、微動だにしないものでなく、益々無産階級と殖民地民衆を犠牲にする金融寡頭支配が強められるであらう。

この金融資本の政治勢力に對置するところの勢力として軍閥を見出す。滿洲事變を契機として一躍日本の政治を支配するかの如き様相を呈したが、滿洲國の建設の段階に入ると、軍閥は經濟的方策の遂行に無力を表明し、一方金融ブルジョアの要望する諸外國との間に妥協外交が漸次成功を招き、一方軍閥を巡るところのファッショ勢力の無力が證せらるゝや漸次潮落に轉じたこれは必然の結果である。

然かし乍ら三五、六年の危機が存在し、軍備の擴充を必要とし、軍閥と金融資本家が共に東洋モンロー主義の確立を要望し、軍事インフレにおいて一致し、國民の多數が軍閥に好意を持てる現狀において、軍閥の政治勢力は急速に没落し去るものでなく軍閥は金融資本家との妥協の上に自己の勢力の存置を計かつて行くであらう。

既成政黨の政治勢力は急速に凋落し、現時や、其の勢力

を挽回した。この凋落は既成政黨が無秩序の政權奪取と利權を事としたることによつて、國民の支持を失ひしにあることは勿論であるが、強權獨裁政治の途上に所謂自由主義政黨が没落し行くことも亦止むを得ないであらう。けれども國民の中に永がく養ひし彼等の勢力はしかく簡単に没落し去るものでもなく、急激に政治支配の形の變化を喜ばざる金融資本家に支持せられ、今日の勢力を保持し來たつたところの既成政黨は、自己の内部清算によつて過夫の勢力の奪還に努めるであらうし、このために既成政黨の内部に幾多の分解合一作用が行はれるであらう。

此等の政治勢力の外に所謂新官僚階級としての政治勢力が存在する。急速に成長しつゝ、此の勢力は今だ一つの結集されたるものではないが、既成政黨が自己の本來的任務たる政治を行ふこと能はず、金融資本勢力が政黨の影を必要とし、軍閥が政治機關を掌握し得ざる今日においては、此等の三勢力の均衡の中に其勢力を伸ばすであらう。

岡田内閣はかかるブルジョア内部の勢力の均衡の上に生れたるものであり、金融資本家、産業資本家の要望を中心とし、軍閥の要望を側面として政治が行はれ、無産階級の犠牲は種々の政策によつて強要されるであらう。これら資本家勢力に對抗するところの無産階級の勢力は

頗る微弱である。労働組合員三十八萬人の組織は分裂し、産業別組合への整理統一による戦線統一は其の緒に就きしのみであり、而かも此の微弱の組織の中には反動的傾向及御用團體の傾向を含むものすら有する現狀である。

農民組合は約三十萬戸、其の闘争は農民の自然發生的な闘争の全部をすら指導するには至らず、窮乏打破のための議會請願運動、産業組合等の運動は資本家的指導者又は自主主義者等の指導に委ねてゐる現狀にある。

又小市民の窮乏運動は其の大部分を既成政黨者流の利用に委せつゝある現狀にある。

此等土臺の上にある無産政黨は大衆的組織を確立するに至らず、有ゆる層を網羅したる全體的闘争を展開する力に缺陥してゐる。

従つて吾等は、階級的主体勢力の擴大と強化は緊急欲くべからざる任務であり、このことによつてのみ無産者の生活は守られるであらう。

吾等はこのために當面左の根本的諸方策による闘争を展開し、主體勢力の擴大に努めなくてはならぬ。

- 一、ブルジョア政權打倒の爲の闘争
- 二、政權奪取のための闘争
- 三、労働權確認の爲の闘争

#### 四、農村窮乏打破の爲の闘争

#### 五、小市民獲得の爲の闘争

#### 六、戦争の危機克服の爲の闘争

### 三、社會大衆黨の擴大強化

階級的大衆政黨たる社會大衆黨のみが、今日日本の無産者階級を解放し得るものである。日本共産黨の公式主義は大衆黨としての本質を失ひ、自餘の自稱無産政黨は其の本質に於いて反動政黨の外何物でもない。

従つて社會大衆黨の擴大強化のために、支持労働組合として凡ゆる方策を取らなくてはならぬ。そのために吾等は當面左の諸方策を遂行する。

- 一、黨と組合との結合強化のための闘争
  - 1、組織職場に黨工場分會の設立強化
  - 2、黨労働委員會との積極的協力
  - 3、勞農結合の爲めの闘争
  - 4、黨財政の充實の爲の闘争
  - 5、研究會、茶話會其他一切の教育的活動
  - 6、黨の指導及影響下にある協同組合への参加及協力
- ### 二、黨の闘争への積極的参加
- 1、ファッショ粉砕の爲の闘争